

ボーイスカウト東京連盟  
あすなろ地区 広報誌  
第32号  
2020年(令和2年)  
9月6日  
組織拡充委員会

## 地区ベンチャーフォーラム テーマは「おうちスカウティング」

7月26日(日)、地区のベンチャーフォーラムが高円寺中央会議室で開催され、11名のベンチャースカウトが参加し、各団のローバースカウト、高3のベンチャースカウト、リーダーが支援しました。

コロナウイルス感染防止のため、入口では検温して、アルコール除菌液で手洗いし、各自マスクとフェイスシールドを着用して、広い部屋の窓を開けて換気に努め、間隔を空けて座りました。

開会式

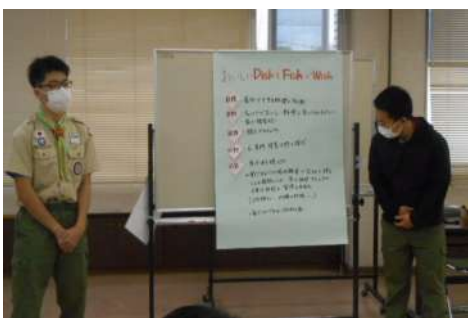


テーマは「ベンチャースカウトが実践する、おうちスカウティング」で、コロナウイルスで普段どおりの活動ができない状態が続いているため、ベンチャースカウトらしい、在宅でも活動できる取り組みについて仲間とともに考え、話し合いました。

参加者は3つのグループとなり、「おうちスカウティング」には何があるか、また何ができるかについて、グループで討議し、目的と目標を明確化してグループ発表し、具体的な「おうちスカウティングの企画書」を作成しました。



在宅でも活動できる取り組みを各自考えてポストイットに記入し、イメージをグループ化



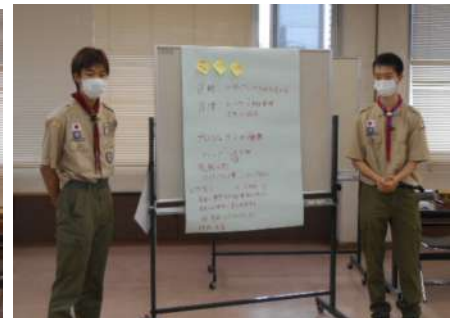
### 「おいしいDishをFishでWish」

キャンプでおいしい料理が食べられるよう、屋外でできる料理を家で挑戦！魚料理に必要な技能を取得する



### 「Online Day Camp」

新しいキャンプ作りのため技術の向上、ストレスの解消、いろいろな料理を作る。



### 「明日に向かって撃て」

パイオニアリング技能を高めるため、ロープワーク技能の修得、丈夫な工作物を作成する。



おうちスカウティングの企画書を具体的にとりまとめ

グループの討議内容は、具体的な「プロジェクトの計画」としてアクションプランを作成し、内容を発表しました。フォーラムに参加のスカウトからは「ベンチャー隊の活動で、プロジェクトの立ち上げ方、会議の話し方、計画書の書き方について学ぶことができ、自隊での活動に参考にしていきたい」との感想もありました。



討議担当の指導者の方々

## 東京連盟のベンチャーフォーラム

東京連盟のベンチャーフォーラムは、9月5日(土)～6日(日)、パソコンを使ったオンライン会議で開催され、当地区からは杉並11団の高野夏帆さん、杉並13団の谷本佳之さんが参加しました。

5日は地区代表の自己紹介のあと、各地区でのフォーラムの内容を報告しました。

6日は4つの分科会に分かれて、「私たちにできる社会貢献」のテーマについて意見交換し、分科会ごとに取りまとめた内容を報告して、意見交換の内容をもとに、参加者全員で東京連盟としての採択文を作成しました。

## 菊スカウト章の伝達

8月2日(日)、四宮区民集会所で杉並11団の阪之上 史佳さんに菊スカウト章が伝達されました。

佐藤地区委員長より進級証、岡村地区協議会長より菊スカウト章、飯沼副コミッショナーより記念ネットカーフリングが渡されました。

なお、菊スカウト進級の地区面接は、7月5日(日)にコロナウイルス感染防止のため、Zoomで行われました。





# コロナに負けず 夏の活動を元気に展開！

## 舎人公園でデイキャンプ

中野8団カブ隊長 小倉 栄一

残念ながら3泊4日の夏のキャンプは、宿泊プロ自粛で中止になったため、今年のキャンプとして8月16日(日)に、足立区の都立舎人公園に出掛けました。ウィルス感染防止のため、しっかり検温し、マスクを着用して、地下鉄/舎人ライナーには分散乗車などに気を付けて、野外料理プロも控えての実施としました。

宿泊は出来なくても、カブのキャンプの雰囲気を感じてのプログラムです。

**キャンププロ①ハイキング。** 地図上のチェックポイントを追って、課題をクリアして進みます。途中、虫探しや木の枝集め、そりすべりなどを経てキャンプ場へ。暑い日差しの中、何とかみんなたどり着きました。

**キャンププロ②ペットボトルゲット大作戦！** 喉がカラカラなので、リーダーが冷たい甘いジュース“サングリア”を準備してくれていますが、材料になるペットボトルを組毎にゲットしなければなりません。先週までのテーマのなわ結びの“引きとけ結び”で、組で力を合わせて“サングリア”を確保しました！

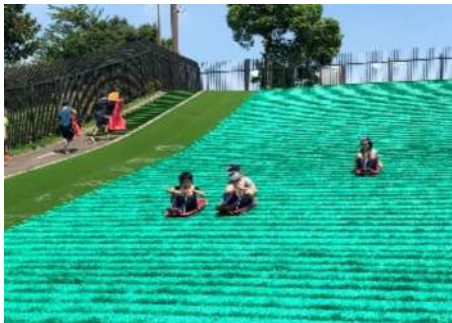
**キャンププロ③テントたて。** キャンプといえばテント！リーダーに教わりながら、組毎にしっかりテントを立てて、中で一休み。ここでお昼、カブ弁とサングリアを飲んで元気をチャージ。

**キャンププロ④キャンプファイヤー。** カブコールの後、国旗を掲揚し、炎天下の中だけど、キャンプファイヤー体験として、みんなの好きな“ヤヤヨーヨーユビ”と“ビスタ”を歌って踊りました。

**キャンププロ⑤火おこしゲーム。** 料理は作れなかったけど、薪を集めて、葉っぱを敷いて、マッチを擦って、何度もトライして、初めてみんなで火をおこしました。火が付いたところで、自分で拾ってきた小枝で“焼マッシュマロ”を焼いて、美味しく食べました。

今回のキャンプ場は設備も整い、炎天下を避けられる建物もあったため、暑い一日であったにもかかわらず、熱中症を回避できましたが、中野から近場の公共キャンプ場を利用できれば、効率良いと感じました。

みんな汗ダクだったけど、笑顔があふれた一日でした！





## フェイスシールドを作りました 中野11団カブ隊長 湯澤 勇輝

7月19日(日)のカブ隊の集会で、コロナウイルス感染防止のため、「フェイスシールドづくり」をしました。

フェイスシールドがマスクより優れているのは、息が苦しくないこと、暑くないこと、食べたり飲んだりできることで、少し離れた相手でも、何を言っているのかが表情で読み取れますし、実際にフェイスシールドを装着して体験してみると、意外と快適です。

フェイスシールド材料の予算は300円で、100円ショップに買いに行きました。クリアファイルの素材は、安直すぎるので使用禁止にして、ほかに何が使えそうか、自分なりに探してみました。帰ってきたら忘れず手洗いをしました。



作り方は簡単で、透明シートにお面のようにバンドをつけ、後ろはゴムやマジックテープで調節できるようにして、ホッチキスでパチパチ止めるだけ。おでこのところにスポンジをくっつけたら出来上がりです。



出来上がったフェイスシールドの効果を確認しに外へ！ フェイスシールドをつけて、水鉄砲で顔を狙い撃ち！ ちょっと用途は違いますが、まあ、大盛り上がり！ 至近距離から撃たれても、完璧に顔は守られてました！！





## 秋川の川原で水遊び

## 杉並3団カブ隊副長 松窪 美香

杉並3団カブ隊では、8月9日(日)、夏季舎営の代わりとして、秋川渓谷にて活動を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、宿泊を伴う舎営を行うことができなくなってしまい、それでも何とかスカウトたちに自然の中で夏を感じる活動をさせてあげたい、というリーダーたちの思いの詰まった集会でした。

長かった梅雨がようやく明けたと思ったら、今度は体温超えの猛暑が続く中、コロナと熱中症の両方の対策をしながらの活動になりました。

荻窪駅に集合後、まずスカウト、リーダー、お手伝いの団委員や保護者の方から体温・健康報告を受けました。

その後、マスクを着用して中央線で武蔵五日市駅まで約1時間、電車内では密にならないよう、スカウトたちは数分ずつ離れた場所に立つようにしました。

さらに駅から川原まで徒歩で約40分の移動です。駅からの炎天下の移動は時々マスクを外し、水分補給をしながら、みんな頑張って歩きました。

到着後、先着隊が準備した日よけの下で、ペットボトルを使った水鉄砲と生き物観察用の水中メガネを作り、安全に関する注意を受けた後、早速川に入りました。

水は想像以上に冷たくて、火照った体にはとても気持ちよく、スカウトたちも大喜びでしたが、急に深くなったり、流れが速くなったりする場所もあるので、リーダーや大人たちが川の中に立ち、安全に留意しました。

昼食はカブ弁です。組ごとに横並びで、静かに食べることができました。いままではおしゃべりしながらの楽しい昼食タイムだったので、なんとなく物足りない感じでしたが、これも新しい活動の形の一つです。

昼食後は、浮き輪を使って少し流れがある場所で遊びました。ループノットを数個作ったロープの先を浮き輪につなぎ、川下から流れに逆らってノットをつかみながら自力で戻ってくる、という少しスリリングな遊びでした。スカウトたちはこれを「ボート遊び」と名付けて満喫したようでしたが、同時に川の流れの速さと怖さも体感したのではないのでしょうか。

ほかにも組対抗でスイカ割りをしてスイカを食べたり、小さなカニをつかまえたり、水中メガネで魚も見つかったり、魚の種類がわからず残念でしたが、久しぶりの野外活動を楽しむことができました。

まだまだ感染の終息が見えない中、以前のような活動を行うのは難しく、またその活動にも制限や不自由が伴います。今までの安全対策に、感染に対する対策も加えなくてはなりません。

これからは、オンラインも利用するなど、新しい活動の仕方を模索しながら、みんなが安全に、そして安心して参加できる楽しい集会を計画していけたらと思います。





## シャワークライミング・ナイトハイク 杉並5団ボーイ隊副長 稲川拓海

杉並5団ボーイ隊では夏キャンプが実施できない代わりに、シャワークライミングとナイトハイクを実施しました。新型コロナウイルス予防対策として、スカウトとリーダーは事前に自宅で検温して、集会前に体温と健康報告をしてもらい、活動中はマスクを着用し、適宜手洗いと手指消毒をおこないました。また熱中症対策として、水分を十分確保するとともに、シャワークライミングと登山時は、お互いの間隔をあげ、マスクを外して活動しました。

8月13日(木)、奥多摩の沢でのシャワークライミングは、安全面を考慮してツアー参加としました。

大きな岩や滑りやすい岩の沢を歩きながら、滝を登ったり、天然のプールに飛び込んだり、泳いだりしながら源流を目指しました。滝の近くは流れが早く、スカウトのみならずリーダーまで、岩にしがみついていたられずに流されてしまうほどでしたが、沢の水は非常に冷たく、涼しさを感じることができ、とても気持ちが良かったです。

最後は大きな滝の上から、ウォータースライダーのように勢いよく滝壺へドボン!と滑り落ちました。

その後、近くの河原へ移動し、川幅の計測を行いました。班長が積極的に、班員へ計測方法を伝達している姿を見て、成長を感じて嬉しくなりました。



その2日後の8月15日(土)には、高尾山でナイトハイクを実施しました。相模湖駅を出発して、東海自然歩道を通り、山頂へ向かうコースを歩きました。スカウト達は、市街地では道に迷いながらも、なんとか自然歩道の入口へ到着。山頂へは、暑さで息が上がりながらも、誰ひとり抜けることなく登頂することができました。

山頂での天体観測は少し曇っていましたが、北斗七星や北極星、ペルセウス座流星群も見れました。

連日の猛暑の中の活動で、スカウト達も疲れたと思いますが、久しぶりの野外活動は、良い気分転換になったと思います。

このような特殊な状況の中でも、スカウト達の一生の経験になる活動ができるように、可能性を模索していきたいと思います。





## 0泊3日の地蔵山キャンプ

杉並6団ボーイ隊長 古川 久生

8月の夏キャンプは、八王子の地蔵山キャンプ場で8月9日(日)から11日(火)まで、コロナウイルスの感染防止策を万全にして、宿泊なしの「0泊3日」のキャンプを行いました。

コロナとの闘いに加え、高温と蚊との闘いが加わり、従来のキャンプのようにはいきませんでした。夏の良い思い出を作ることができました。

◆第一日目は朝6時30分に西荻窪駅に集合し、立川駅でモノレールに乗り換え、地蔵山キャンプ場に到着。開営式のあと、いつものキャンプと同じようにテント、タープ、立ちかまど、調理台、水場などを設営しました。カレーライスの夕食を終えて、宿泊はせずに、モノレールとJRで帰宅しました。



◆第二日目も朝6時30分に西荻窪駅に集合し、多摩動物公園駅からキャンプ場まで野帳をつけながら歩きました。スカウト技能を使ったゲームが二日目のメインプログラムで、マッチ1本と新聞紙1枚で麻ひもを焼き切る「火つけゲーム」、マッチを使わず火を起こす「火起こしゲーム」のあと、昼食は冷たいそうめんでした。

午後はコンパスを使い、方位と歩測でゴールを当てる「コンパスゲーム」、渡された野帳を読んでスタート地点に戻る「バックベアリング」を行い、牛丼の夕食をとって帰宅しました。



◆最終日の三日目も6時30分に西荻窪駅に集合。日に日に暑さが増し、気温が38℃になると予想されたため、予定していたゲームはせず、朝礼後すぐに撤営に入りました。参加スカウト、リーダーも少なかったため、撤営は昼過ぎまでかかり、写真をとる余裕すらありませんでした。

3日間とも晴天でしたが気温がとても高く、毎日日帰りでキャンプ場を往復したので、宿泊するより体力的にきついキャンプになりました。

今年は夏休みも短く、塾やクラブ活動が重なり、参加スカウトも少なくなりましたが、コロナ禍での貴重な夏の野外活動となりました。また、コロナ感染対策にも注意を払い、毎日の検温、マスク着用、手洗いなどは当然のことながら、調理での使い捨てゴム手袋の着用、公共トイレの消毒も徹底しました。

これからもコロナとの闘いは続きますが、スカウティングを続けていきましょう！



## 宿泊なしで日帰りキャンプ

## 杉並12団ボーイ隊長 小平 吉彦

杉並12団ボーイ隊も、昨年度は2月2日(日)の班プロジェクトを最後に、活動の中断を余儀なくされ、今年度の活動は、ようやく6月14日(日)の班集会から再開することができました。しかしながら宿泊を伴う活動の自粛は続き、夏キャンプとして予約を入れていた会津山村道場キャンプ場には、泣く泣くキャンセルの連絡をしました。

気を取り直し、8月16日(日)の八王子ひよどり山キャンプ場における日帰りキャンプに向けて、活動内容や昼食の献立を決め、団倉庫で炊具類を中心に班備品の点検整備をするなど、準備を積み重ねていきました。

当日は午前10時前にキャンプ場に到着し、飯沼団委員長にも参加いただいて、開会セレモニーを実施しました。

新型コロナウイルス対策としては、ひよどり山の佐藤場長から、非接触の体温計と除菌ハンドスプレーをお貸しいただき、加えて隊としても、アルコールハンドジェル、アルコール除菌スプレー、除菌ウェットティッシュ、ハンドソープを準備しました。

また熱中症対策として簡易マーキー2張り、簡易ベッド1つ、ジャグ2つを持参するなどしました。

今年度のボーイ隊のスカウト構成は、女子6人、男子3人となっていて、全員A型テントの設営経験に乏しく、午前中の活動はベンチャー隊からジュニアリーダーとして2名に参加してもらい、A型テントの設営訓練を行いました。

昼食は薪で火を起し、クジャク班の麻婆豆腐、タカ班の肉野菜炒めは、両班ともなかなかの出来栄で、リーダーもスカウトも、密にならないよう注意をしつつ、笑顔で美味しくいただきました。

午後はボーイ隊リーダーにベンチャーのジュニアリーダーも加わって企画した、歩測やコンパスの使用方法を組み合わせ合わせた測量の訓練となるゲームを実施しました。その後の撤営もスムーズに進み、予定より早くキャンプ場を出発して、阿佐ヶ谷駅に無事に帰着し、解散となりました。

今年の夏キャンプは宿泊なしで、日帰りになってしまったものの、団委員長、ベンチャー隊スカウト、そしてひよどり山の佐藤場長のサポートもいただき、「来るべき宿泊を伴うキャンプに備えての準備ができた…」、そんな活動になったと思います。



ベンチャー指導のAテント設営訓練



クジャク班設営のAテント



タカ班設営のAテント



薪で昼食の調理



肉野菜炒めと麻婆豆腐



向かい合いを避けて昼食



測量ゲーム



間隔を空けて記念撮影